

レンゲツツジのとりきについて

齋 藤 晶

はじめに

レンゲツツジの天然分布は、青森県が北限とされているが、耐寒性もあり、花も美しく、本道の庭園樹として利用が多い。しかし、苗木の多くは本州産に依存しているのが現状である。

当场においては、1963年より、ツツジ類の有性、無性による繁殖試験をおこなってきた。その結果、実生については開花までに5年を要し、さしきについては発根率が低いことが判明した。そこでとりぎによる繁殖試験を1971年におこなったところ、次のような結果を得たので紹介する。

とりぎの方法と管理

レンゲツツジ7年生を母株とし、この中から健全な2年枝を選び、7月6日に地上5～6cmの部分幅0.7cmに環状剥皮した(図-1)。その傷口に植物ホルモソ剤(有効成分 - ナフチルアセトアミド 0.40%、鉱物質微粉 99.60%)を塗布し、この部分に盛り土をおこなうため幅15cm、長さ50cmの板で根株を中心に四方をかこみ、この枠内に材料(とりぎに要する用土、堆肥)を入れ、表面をならした(図-2)。

とりき用土は、鹿沼土(栃木県鹿沼市付近より産する火山性浮石環で、園芸用土として市販されている)、畑上(当场試験圃場の表土)、ピートモス(泥炭まじりの水苔で、市販されている)十畑土く配合比5:5 > ピートモス十火山砂(苫小牧林務署追分苗畑) < 配合比5:5 > および ピートモス単用の5種類に分け、これに堆肥を施したもの5区、施さないもの5区とに分けて比較をした。

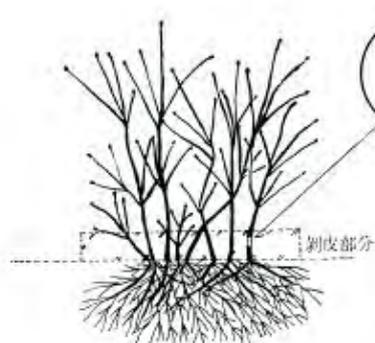


図 - 1 環状剥皮

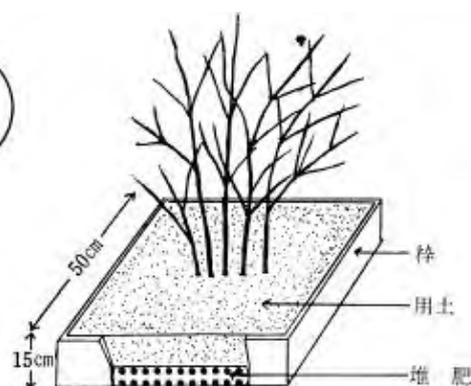


図 - 2 材料および方法

この試験期間中，用土が乾燥した場合は，適時にかん水をおこない，それ以外は放置した。

発 根 結 果

発根の状況を調査するため，ある期間（30～35日）をおいて。処理部の盛り土を取除き測定した。調査後は用土を埋戻し，もとどおりにした。

とりき処理後の35日目（8月7日）には，環状剥皮をおこなった部分にカルスの形成が見られ，上部にそって毛根が発生してきた。

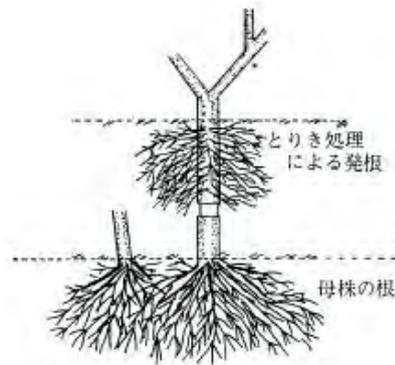


図 - 3 発根状況

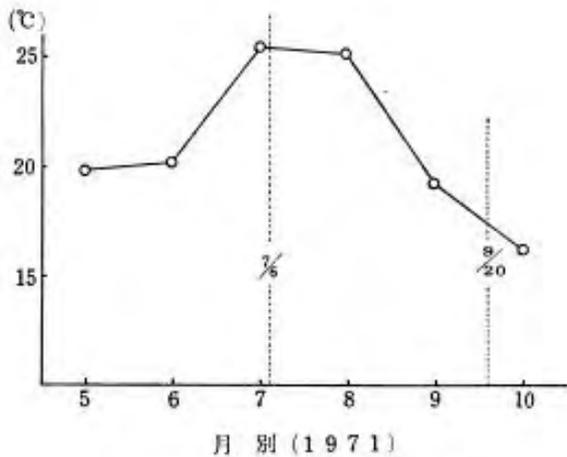


図 - 4 月別平均地温

（地温は地中 10～15cm 美唄）

65日目（9月6日）の調査では，処理枝のある一部に根としての形がととのってきた。その発根状況を模式的に示した（図-3）。

この期間（7月～8月）における地温は，図-4に示したが，25前後で，9月に入り18と低下し，根の発育に変化がみられなくなった。

表 - 1 発根成績（指数）

No.	区分 推肥 用土	全重量		根重量		発根本数		根の長さ		平均	T-R率	順位
		有	無	有	無	有	無	有	無			
1	鹿沼土	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1.3	2
2	畑土	74	72	50	17	69	36	59	40	52	9.3	5
3	ビートモス+畑土	93	73	125	17	50	33	76	70	67	9.1	4
4	ビートモス+火山砂	79	61	100	67	97	63	129	100	87	1.7	3
5	ビートモス	98	83	175	79	57	50	143	129	102	1.3	1

注 1. 鹿沼土を100として用土別の発根成績を指数で示した。

2. 順位は平均 T R 率の相関関係により求めた。

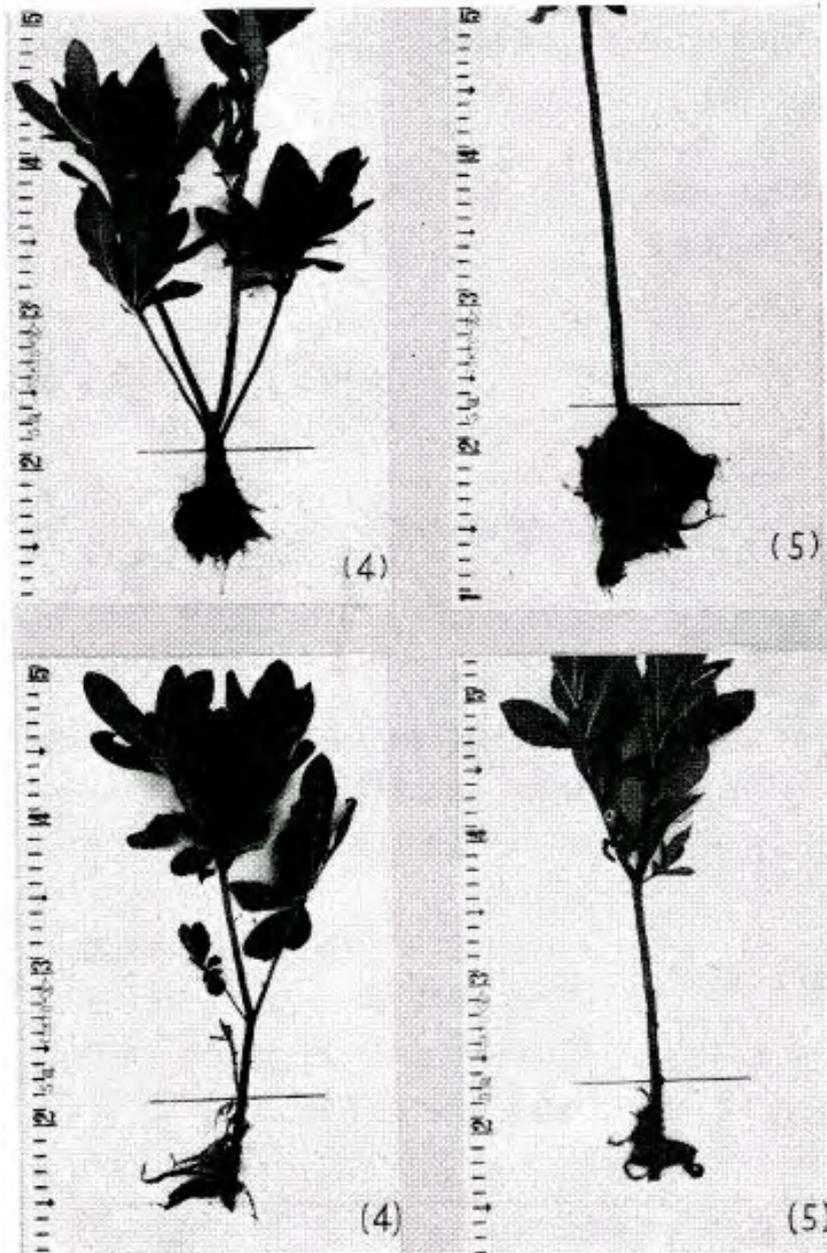


写真 - 1 発根状況

上段は堆肥を施し，下段は堆肥を施さないもの

(4)はピートモス+火山砂，(5)はピートモス単用の発根結果

とりき処理後の77日目(9月20日)に，とりき枝を母株から切離し，用土別に発根状況を調査し，表-1に指数で示した。

その結果，ピートモス、鹿沼土、ピートモス+火山砂の順に発根した量が多く，ピートモス+畑土および畑土単用区については発根した量が少なかった。

また堆肥を施さないものは，同じ用土においても発根の量が劣り，このとりき方法でおこなう場合は，堆肥を施すことにより効果が認められた。なお，発根状況の一部を写真-1に示した。

まとめ

レソゲツツジは，庭先に多くみられる花木である。

苗木の増殖は実生によって多くおこなわれるが，技術的にも一般家庭ではむずかしいので，従来，品種の保存や増殖は，さしき，とりきによっておこなわれ

ている。前者は発根率が低く，養成上も困難であるが，後者は，短期間に成苗を得ることが可能で，また翌年から花も楽しむことができ，技術的にも家庭の樹木園芸として容易である。

この試験は，1971年におこなった部分的な結果をとりまとめたため，確定的な方法とはいえないが，さらに検討を重ね，今後ともとりきについての研究範囲を広めていく予定である。

(樹芸樹木科)